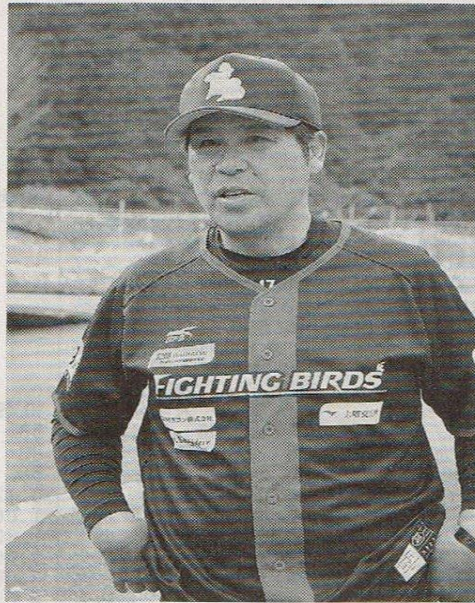


「地元で愛されるチームに」

インタビュー

野球独立リーグ 和歌山ファイティングバーズ

山崎 章弘監督(55)



野球独立リーグ「ベースボール・ファースト・リーグ(BFL)」が4月に開幕する。今季からリーグに加わる田辺市のチーム「和歌山ファイティングバーズ」の山崎章弘監督(55)に、開幕前の心境を聞いた。(聞き手は保富一成)

チームの仕上がりは、普段練習しているグラウンドの設備の問題から、本格的なバッティングや実戦形式の練習ができなかった。開幕タッシュは難しいが、実戦を重ねながら補っていく。選手には積極的な失敗をしろと言っている。一戦力はそろっている

か。投手は9人で十分だが、投手の球を受ける捕手が2人しかない。野手も含めてもう少し補強したい。アウトに注目されている選手もいる。選手たちは今の環境に文句も言わず、ひたむきに頑張っている。一BFLの魅力について。プロ野球入りを目指す選手たちの必死さを見てほしい。プロ野球のように完璧な野球ではないが、選手たちのはい上がっていく姿や泥臭い野球を見せたい。ファンの皆さんが選手をつくと思つ。一地元でファンを増やすために必要なことは、

り上げた。

監督が考えたチームのキャッチフレーズ「和夢(わむ)」に込めた思いは。和歌山の地からプロへの夢をつかむ選手を一人でも多く出したい。プロ野球のコーチも経験したが、選手と一緒に夢を追い掛けられる独立リーグにやりがいを感じる。和歌山は地元であり、自身で最後の仕事だと腹をくくって頑張る。

披と読売ジャイアンツ(3軍)との交流試合がある。入場料は18歳以上が千円、17歳以下は無料。BFL選抜は、和歌山ファイティングバーズの選手を中心に構成する。問い合わせは、和歌山ファイティングバーズ球団事務所(0739・34・7200)へ。

巨人と交流試合

30日、田辺

30日正午からは、田辺市上の山1丁目の田辺スポーツパーク野球場でBFL選抜チームで優勝を争う。

山崎章弘(やまざき・あきひろ) 和歌山市出身。神戸市の育英高校へ進学。長打の捕手として活躍し、1979年のドラフト2位で巨人に入団。巨人、日本ハムで91年まで現役を続けた。日本ハムや中日のコーチなどを経て、2013年から16年まで独立リーグの兵庫ブルーサンダーズの監督を務めた。次男は15年にオリックスにドラフト1位で入団した福也(さちや)投手。